

基本方針 1 市町村とともに小・中学校の教育力を充実します

基本的方向

- 市町村の主体的な取組みを支援するとともに、課題のある学校への重点的な支援を行い、子どもの力をしっかり伸ばす学校力の向上を図ります。
- 教育内容の充実や授業改善などへの支援をすすめ、「基礎・基本」の確実な定着と「活用する力」の向上を図り、すべての子どもにこれからの社会で求められる確かな学力をはぐくみます。
- 学校教育全体を通して、互いに高めあう人間関係づくりをすすめます。

後期事業計画の視点

前期事業計画に基づき、中学校の学力向上へ向けた支援に重点的に取り組んだことにより、各小・中学校で組織体制を有効に機能させ、PDCAサイクルに基づいた取組みが充実した。「全国学力・学習状況調査」結果の経年変化を見ると、2017（平成 29）年4月実施の調査では、中学校では平均正答率がすべての教科・区分で上昇傾向にあるものの、小学校ではこの間全国平均より低い状況が続いている。今後は、すべての学習の基盤となる「言語能力」の育成の充実を図るとともに、引き続き「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を行うなど、小・中学校とも学力の向上に努める必要がある。

また、2018（平成 30）年度以降、各校種で段階的に実施される新学習指導要領では、より一層、学力を確実に身に付けさせるため、社会に開かれた教育課程の実現や、知識・理解の質などをさらに高めること、「学びに向かう力」の涵養等が示された。そのため、引き続き、「子どもの力をしっかり伸ばす学校力の向上」に向けて、市町村教育委員会と連携してさらなる取組みをすすめる必要がある。また、学力向上の取組みとあわせ、子どもが落ち着いて学びに向かえる環境づくりに向けて、暴力行為等問題行動の減少にも取り組むことが求められている。

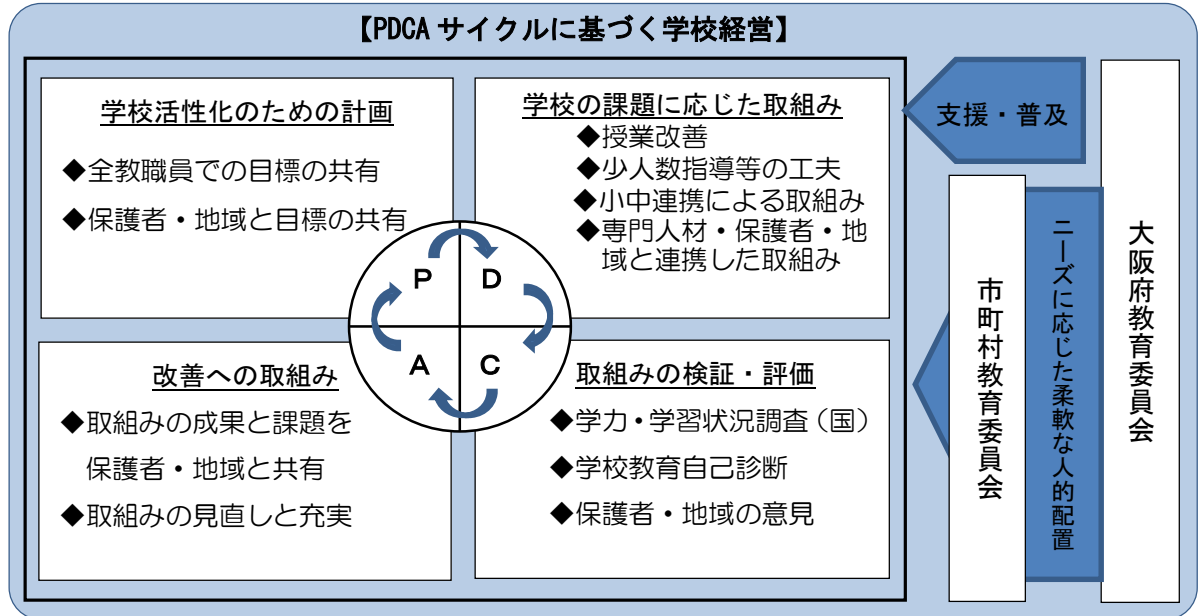
実現をめざす主な指標

指 標	現 状 値	目 標 値
「全国学力・学習状況調査」における平均正答率	小6：国A：72.1%（※全国：74.8%） 国B：54.5%（※全国：57.5%） 算A：77.8%（※全国：78.6%） 算B：44.6%（※全国：45.9%） 中3：国A：75.3%（※全国：77.4%） 国B：69.1%（※全国：72.2%） 数A：63.7%（※全国：64.6%） 数B：46.3%（※全国：48.1%） （2017（平成29）年4月調査）	小6：全国水準の達成・維持 中3：全国水準の達成・維持 （2022年度）
「全国学力・学習状況調査」における無解答率	小6：4.2%（※全国：3.8%） 中3：7.3%（※全国：6.1%） （2017（平成29）年4月調査）	全国水準の達成・維持 （2022年度）
「家で計画的に学習する」と回答した児童・生徒の割合	小6：55.5%（※全国：64.5%） 中3：48.7%（※全国：51.5%） （2017（平成29）年4月調査）	全国水準の達成・維持 （2022年度）
「児童・生徒は熱意を持って勉強している」と回答した学校の割合	小学校：28.2%（※全国：26.5%） 中学校：27.3%（※全国：24.2%） （2017（平成29）年4月調査）	向上させる （2022年度）
「自分には良いところがある」と回答した児童・生徒の割合	小6：74.9%（※全国：77.9%） 中3：65.6%（※全国：70.7%） （2017（平成29）年4月調査）	向上させる （2022年度）

重点取組①

子どもの力をしっかり伸ばす学校力の向上

◇小・中学校の学校力向上へ向けた重点支援



【事業概要】

学力向上に積極的に取り組む小・中学校を指定し、学力向上の取組みの中心となる教員を配置するとともに、府教育庁と市町村教育委員会が協力して、指導・助言を行う。指定校では学校活性化のための計画に基づく取組みをすすめるため、テスト等客観的なデータに基づく検証・改善のPDCA サイクルを保護者、地域と共有しながら推進する。

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の学力傾向や課題を全教職員の間で共有している学校の割合 小学校：57.4%（※全国：62.5%） 中学校：53.7%（※全国：56.5%） （2017（平成29）年4月調査） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の学力傾向や課題を全教職員の間で共有している学校の割合 全国水準をめざす （2022年度）

◇少人数学級編制の推進

【事業概要】

学習指導・生徒指導の両面でのきめ細かな指導・支援を行うために、小学校1・2年生において35人を基準とした少人数学級編制を引き続き実施する。また、国の動向を踏まえながら、小学校3年生から中学校3年生について、市町村や学校の実情に応じた少人数学級編制の実施へ向けた検討を行う。

◇少人数・習熟度別指導等の推進

【事業概要】

個に応じた指導による指導方法の工夫を通じて児童・生徒の学習理解を促進するため、小学校3年生以上において、少人数・習熟度別指導等を実施する。

◇授業改善への支援

【事業概要】

☞ 教員研修の充実

府教育センターにおいて、教員の経験年数等のキャリアに応じた授業づくり研修を実施する。これらの研修を通して、児童・生徒に知識や技能の伝達だけでなく、思考力・判断力・表現力等をはぐくむ授業への工夫・改善を促進し、「主体的・対話的で深い学び」の充実を図る。

また、研修を通じて、学びの成果として「何が身に付いたか」に関する学習評価のあり方やその評価方法等を改善・充実させる。

☞ 校内研究の推進

府教育センターによる、市町村教育委員会と連携した校内研究の研修等の実施や、校内研修のための資料とその具体的活用方法の提供を通じて、各学校での授業研究や校内研究を推進する。

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"> 授業研究を伴う校内研修を5回以上実施している学校の割合 小学校：91.3%（※全国：88.0%） 中学校：71.7%（※全国：68.4%） （2017（平成29）年4月調査） 	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究を伴う校内研修を5回以上実施している学校の割合 向上させる （2022年度）

◇小中連携による「学びに向かう力」の育成

【事業概要】

「学びに向かう力」育成のための取組みを、中学校区単位で、支援人材や専門人材との連携により推進していく。

具体的には、学習指導面から、市町村教育委員会に対する教材の提供、学校現場における学習習慣・学習規律の定着に向けた取組みを行うとともに、生徒指導面から、暴力行為等問題行動の未然防止、早期対応を行う。これらの取組みにより、児童・生徒の生活を支え、「やる気」を育成し教育効果を高めていく。

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"> 小・中学校において、子どもが熱意をもって勉強していると思う学校の割合 小学校：28.2% 中学校：27.3% (2017(平成29)年4月調査) 小・中学校において、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う学校の割合 小学校：41.5% 中学校：45.0% (2017(平成29)年4月調査) 	<ul style="list-style-type: none"> 小・中学校において、子どもが熱意をもって勉強していると思う学校の割合 向上させる (2022年度) 小・中学校において、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う学校の割合 向上させる (2022年度)

◇グローバル人材の育成

【事業概要】

小学校では3・4年生における外国語活動の導入や、5・6年生における外国語の教科化を踏まえ、児童の英語4技能(聞く・話す・読む・書く)を育成する。また、DVD教材「大阪府公立小学校英語学習6カ年プログラム(DREAM)」の普及や研修により教員の指導力向上を図る。

また、中学校では、生徒に求められる英語力を達成するための学習到達目標として各校で設定した「CAN-DOリスト」を活用するとともに、授業を英語で行うことを基本とすることなどにより、小学校での英語学習で身に付けた4技能をさらに伸ばす。

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領に基づいた英語教育に係る校内研修を実施している小学校の割合 76.9% (2016(平成28)年度) 英語で授業を行っている中学校英語担当教員の割合 54.6% (2016(平成28)年度) 	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領に基づいた英語教育に係る校内研修を実施している小学校の割合 100%をめざす (2020年度から) 英語で授業を行っている中学校英語担当教員の割合 100%をめざす (2018(平成30)年度から)

◇「観察・実験」を重視した理科の授業づくりへの支援

【事業概要】

「理科授業づくり」や「小学校『理科』授業ハンドブック」「中学校『理科』授業プラン集」を活用した研修を通して、「観察・実験」を重視し、児童・生徒が自然の事物・現象に興味・関心をもつことができる授業づくりを支援する。

また、「理科教育ネットワーク協議会」を活用し、コア・サイエンス・ティーチャー（CST）による市町村での研修活動を促進する。

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none">理科授業づくり研修の実施 (2017(平成29)年度)「理科教育ネットワーク協議会」立ち上げの準備 (2017(平成29)年度)	<ul style="list-style-type: none">理科授業づくり研修受講者の肯定的評価 90%以上 (2018(平成30)年度から)「理科教育ネットワーク協議会」を活用した研修に 全市町村の教員が参加 (2022年度)

◇地域人材との連携による子どもの学びの支援【再掲】

【事業概要】

豊かな経験や高い専門性を持つ地域人材の学習支援への参画を促進し、子どもの豊かな体験活動や地域の大人と関わる場づくりをすすめるため、教職員及び地域コーディネーターを対象とした、地域と連携・協働した学習支援活動に関する研修や、他地域で参考にできる成功事例の集約、市町村教育委員会等への情報発信を継続的に実施する。

(「基本方針9：地域の教育コミュニティづくりと家庭教育を支援します」参照)

◇道徳教育の推進【再掲】

【事業概要】

「特別の教科 道徳」として、問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れ、子どもが自ら考え、議論する授業への改善・充実を図る。そのため、先進的に取り組んだ学校の事例を示すなど、研修を実施する。

（「基本方針 4：子どもたちの豊かでたくましい人間性をはぐくみます」参照）

◇人権教育の推進【再掲】

【事業概要】

「人権教育基本方針」「人権教育推進プラン」に基づき、人権教育のための教材集・各種資料の活用促進や研修・報告会等の実施により、各学校における人権教育の一層の充実を図る。

また、研究校を指定し、児童・生徒の豊かな人権感覚の涵養と人権意識の高揚のための効果的な指導方法等に関する調査研究を行うとともに、研究成果の普及を図る。

（「基本方針 4：子どもたちの豊かでたくましい人間性をはぐくみます」参照）

◇国際理解教育等の推進【再掲】

【事業概要】

「在日外国人教育のための資料集―違いを認め合い 共に生きるために―」の活用促進を図り、在日外国人児童・生徒が自らの誇りや自覚を高め、自主活動を通じて、本名を使用できる環境の醸成に努めるなど、指導を一層工夫・改善する。

また、帰国・渡日児童・生徒に対しては、小・中学校への日本語指導対応加配教員の配置や、学校生活・進路情報等の多言語での提供など、学習・進路支援や就学支援等の充実を通じて、多文化共生の取組みを推進する。

（「基本方針 4：子どもたちの豊かでたくましい人間性をはぐくみます」参照）

◇社会体験や自然体験、生徒会活動の充実【一部再掲】

【事業概要】

放課後や週末等に、安全で安心な子どもの活動場所を確保するとともに、子どもの体験・交流活動等を地域社会全体で実施する。また、大阪の自然や文化資源をもとに農業体験、環境学習、文化体験などの体験活動の場を提供する。

知事の権限事務

さらに、中学校生徒会サミットを開催するとともに、市町村単位での生徒会活動の推進や学校間の取組みの交流など、生徒会サミットのすそ野を広げ、より良い人間関係を主体的に形成する力や生徒の自主的・主体的な姿勢をはぐくむ。

（「基本方針 4：子どもたちの豊かでたくましい人間性をはぐくみます」参照）

◇校種間連携の強化

【事業概要】

保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・高校・支援学校の接続や連続性を踏まえ、校種間の段差を解消し円滑な接続を図るため、異なる校種間での研修交流の実施や、人事交流等の拡充を図る。

小・中学校においては、小・中学校間の指導の一貫性や系統性を持たせ、円滑な指導を図るため、行事の交流や指導方法の改善等について教職員の連携を促進する。また、教員の兼務等による交換授業や合同授業等の実施を促進する。

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"> • 2017（平成 29）年度当初人事 小中間の人事異動等 436 名 中高間の兼務 3 名、人事交流 1 名 小中・支援学校との人事交流 9 名 • 合同研修等による教員間の連携 幼保こ・小連携 56.9% 小中連携 小：96.5% 中：97.9% (2016（平成 28）年度) 	<ul style="list-style-type: none"> • 2022 年度当初人事 小中間の人事異動等の拡充 中高間の人事交流等の拡充 小中・支援学校との人事交流の拡充 • 合同研修等による教員間の連携 いずれについても 100%をめざす (2022 年度)

基本方針 2 公私の切磋琢磨により高校の教育力を向上させます

(1) 公私が力を合わせて高校の教育力向上をすすめます

基本的方向

- 就学セーフティネットの観点から、意欲あるすべての子どもが高校教育を受けることができるよう、公私あわせて高校への就学機会を確保します。
- 公私ともに学校情報についての公表・公開をすすめ、生徒が十分な情報のもとで自らの入りたい学校を主体的に選択できる環境づくりをすすめます。
- グローバル社会で活躍できる人材や、厳しい雇用環境の中であって社会で活躍できる人材を育成するため、公私が切磋琢磨しつつ共同での取組みをすすめます。

後期事業計画の視点

府においては、就学セーフティネットの観点から、すべての子どもが家庭の経済状況等にかかわらず、安心して学べるよう、私立高校生等に対する授業料無償化制度をはじめとする保護者・生徒の経済的負担の軽減に取り組み、公私を問わず自由に学校選択できる機会を保障するとともに、公私の切磋琢磨によるグローバル人材の育成などに取り組んできた。

このような取組みにより、高校（昼間）への進学率が計画策定時に比べて上昇するとともに、グローバル人材の育成に関しては、府立高校における生徒や教員の英語力が向上し、全国水準近くに達している。

今後、教員研修や授業の相互見学など教員の資質向上をはじめ、英語教育やキャリア教育の充実などにおいて公私の切磋琢磨、連携を一層すすめ、大阪の教育力の向上につなげていくことが求められる。

実現をめざす主な指標

指 標	現 状 値	目 標 値
私立高校における学校情報の公表状況	私立高校：財務情報 96.9% 教育長の権限事務 (2016（平成28）年度決算)	これについても100%をめざす (2022年度)
府立高校3年生のうち英検準2級相当以上の割合	36.2%（※全国：36.4%） (2016（平成28）年度)	50%をめざす (2022年度)
府立高校の英語教員のうち、英検準1級、TOEFL550点、TOEIC730点以上を保有する教員の割合	61.1%（※全国：62.2%） (2016（平成28）年度)	75%をめざす (2022年度)
府立高校の英語教員のうち、英検1級、TOEFL iBT80点、TOEIC 1,190点（SW含む）、IELTS 6.5以上を保有する教員の割合	17.1% (2016（平成28）年度)	20%をめざす (2022年度)
公立・私立高校卒業者の就職率（就職者の就職希望者に対する割合）	95.1%（※全国：98.0%） (2016（平成28）年度)	全国水準をめざす (2022年度)

※府立高校における学校情報の公表状況（財務情報、自己評価、学校関係者評価）は100%である。

◇高校の授業料等に係る支援

【事業概要】

☞高等学校等就学支援金制度

高等学校等における教育に係る経済的負担の軽減を図り、もって教育の機会均等に寄与するため、高等学校等の生徒などがその授業料に充てるものとして就学支援金を支給する。

☞私立高校生等に対する授業料に係る支援

生徒が、中学校卒業時の進路選択段階で、私立の高校や高等専修学校等についても自らの希望や能力に応じて自由に学校選択できる機会を保障するとともに、切磋琢磨しながら大阪の教育力向上を図る観点から、2023年度入学生までを対象に多子世帯の保護者負担に一部配慮した授業料支援を行うとともに、効果検証を行い、国の動向も見極めつつ、その後の制度の検討を行う。

教育長の権限事務

☞奨学のための給付金制度

高等学校等に在学するすべての意思のある生徒が安心して教育を受けられるよう、府内に在住する低所得世帯の保護者等に対し、授業料以外の教育費の負担軽減を目的として、奨学のための給付金を支給する。

☞学び直しのための支援金制度

高等学校等を中途退学した者が再び高等学校等で学び直す場合に、高等学校等就学支援金の支給期間36月（定時制・通信制は48月）の経過後であっても、卒業までの間（最長2年）就学支援金相当額を支給し、授業料の負担軽減を図る。

◇奨学金制度の運営・運用

【事業概要】

大阪府育英会奨学金貸付・給付事業による支援

高校生等が、経済的理由により修学を断念することなく、公私立を問わない自由な学校選択が可能となるよう、奨学金の貸付により支援する。また、非常に強い向学心と、しっかりとした将来の夢を持ちながら、学習環境に恵まれない高校生等の「夢」の実現を支援する。

教育長の権限事務

さらに、奨学金制度を将来にわたって持続可能なものとするため、滞納の抑制に向けた取組みを着実にを行うとともに、各学校の協力のもと説明会を通じた返還モラルの向上による滞納発生未然防止など、状況に応じた効果的な対策に取り組む。

奨学金制度指導・支援の充実

総合相談事業交付金を活用して、市町村が実施する奨学金の活用など進路に関する相談事業を効果的に行えるよう、相談員研修の実施や相談事例の共有化等の支援を行うとともに、府立学校については、奨学金担当教職員に対する研修の実施など、奨学金指導に対する支援を行う。

また、独立行政法人日本学生支援機構が実施する、大学進学を志す生徒を対象とした給付奨学金等について、奨学金を必要とする生徒等に対し、周知を図る。

【事業目標】

現状	目標
【公益財団法人大阪府育英会にお ・給付型奨学金の事業資金の確 績 約 4,459 万円（年額） （2016（平成 28）年度）	金 の事業資金の確保に向けた寄附金目 標 約 4,000 万円（年額）を維持 （2018（平成 30）年度から 2021 年度まで）

教育長の権限事務

◇府立高校における広報活動の充実

【事業概要】

府立高校において、中学校と連携した体験入学や学校説明会を実施するとともに、教育方針や教育課程、進路状況、部活動など、中学生や保護者のニーズに対応した学校情報をホームページ等で提供する。

また、府内の全公立高校を集めた進学フェアの開催や、公立高等学校等ガイドを作成するとともに、生徒・保護者がウェブページ上で希望する学校情報を検索できるシステム「大阪府公立高等学校・支援学校検索ナビ（咲くなび）」を運営する。

◇私立高校に関する学校情報の公表・公開【再掲】

【事業概要】

生徒・保護者が「入りたい」学校を適切に選択できるよう支援するとともに、進路選択に必要な学校情報について積極的に公表・公開し、情報を公開していない学校に対して早期に改善が図られるよう、学校のホームページ等において、財務情報のほか、自己評価や学校関係者評価等の結果を公表するなど、開かれた学校運営に向けた取組みを促進する。

（「基本方針7：学校の組織力向上と開かれた学校づくりをすすめます」参照）

教育長の権限事務

◇グローバル人材の育成【一部再掲】

【事業概要】

国際社会で通用する英語力を備えた生徒を育成するため、生徒の短期留学支援や、外部人材を活用した研修による英語教員の育成など、公私が連携した取組みをすすめる。

府立高校においては、ネイティブ英語教員を活用しながら、授業をすべて英語で行う指導法を推進し、生徒の英語4技能の習得をめざす。特に、府教育庁が開発したスピーキング教材やスピーキングテストを活用することなどにより、スピーキング力の向上をめざした授業づくりをすすめる。

また、グローバルリーダーズハイスクール10校すべてを文理学科にし、大学等と連携しながら課題研究の充実を図るなど、さらなるパフォーマンスの向上をめざす。加えて、「確かな学力の育成」「豊かな人間性の涵養」「高い志と進路実現」を柱とした海外スタディツアー、文武両道を実践する活発な部活動、各界リーダーによる講演会など、特色ある取組みを引き続き実施し、知識を基盤とするこれからのグローバル社会をリードする人材を育成する。

さらに、国際理解、環境、多文化共生、人権、平和、防災などをテーマとして、持続可能な社会の担い手をはぐくむ教育に積極的に取り組むユネスコスクールの充実とネットワークの活性化を図る。

スーパーグローバルハイスクールにおいては、大学や企業、国際機関等との連携を図り、実践的な課題研究を行う探究型の学習を通して、生徒に社会に対する高い関心、深い教養、コミュニケーション能力、問題解決能力等を身に付けさせ、将来、国際的に活躍できるグローバルリーダーを育成する。

また、国際化が進展する中であって、自国及び諸外国の文化や習慣等について理解を深め、互いに違いを認め合い、共に生きていく力を育成するため、海外の学校との国際交流の取組みを充実させる。

(「基本方針2(2)：活力あふれる府立高校づくりをすすめます」参照)

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"> • 生徒の英語力 英検準2級相当以上の高校3年生の割合 36.2% • 英語教員の英語力 府立高校の英語教員のうち、英検準1級、 TOEFL550点、TOEIC730点以上を保有する 教員の割合 61.1% 府立高校の英語教員のうち、英検1級、 TOEFL iBT80点、TOEIC 1,190点(SW含む)、 IELTS 6.5以上を保有する教員の割合 17.1% (いずれについても2016(平成28)年度) 	<ul style="list-style-type: none"> • 生徒の英語力 英検準2級相当以上の高校3年生の割合 50.0%をめざす • 英語教員の英語力 府立高校の英語教員のうち、英検準1級、 TOEFL550点、TOEIC730点以上を保有する 教員の割合 75.0%をめざす 府立高校の英語教員のうち、英検1級、 TOEFL iBT80点、TOEIC 1,190点(SW含む)、 IELTS 6.5以上を保有する教員の割合 20%をめざす (いずれについても2022年度)

◇理数教育の充実

【事業概要】

スーパーサイエンスハイスクール指定校をはじめ、将来、理数分野で活躍できる人材の育成をめざす高校において、課題探究型の学習に取り組み、生徒による研究発表会などを通して探究する力を高めるとともに、その成果を府内の学校に普及する。

また、大学や研究機関等との連携強化を図り、課題研究等において生徒が研究者等から指導・助言を受けられる機会を増やすなど、探究活動の充実を図ることを通して、生徒の科学的能力や科学的思考力等を培い、将来の国際的な科学技術関係人材の育成を図る。

さらに、スーパーサイエンスハイスクールを中心としたサイエンス・スクール・ネットワーク（SSN）においては、参加校それぞれの得意分野を生かした取組みを活性化する。

加えて、大阪府学生科学賞を開催し、府内の小・中・高校生の科学的素養のすそ野を広げるとともに、大阪サイエンスデイ（大阪府生徒研究発表会・科学の甲子園大阪府大会）や京都・大阪数学コンテストを開催する。これらの取組みにより、才能や意欲がある児童・生徒を発掘するとともに、学習や進路選択に関する意欲を高め、問題解決能力等をはぐくむ。

【事業目標】

現状	目標
・国際科学オリンピック全国大会での入賞 （2017（平成 29）年度） ・SSN 参加校 公私合わせて 18 校 （2017（平成 29）年度）	・国際科学オリンピック世界大会への出場 （2022 年度） ・SSN 参加校 公私合わせて 25 校 （2022 年度）

◇キャリア教育の充実

【事業概要】

高校と専門学校、企業、外部人材との連携強化を図り、職業適性診断や職業体験、インターンシップなど、各校の生徒のニーズに応じたキャリア教育・職業教育プログラムを実践し、生徒の勤労観・職業観の醸成や「社会人基礎力」の習得を支援する。

【事業目標】

現状	目標
・公立・私立高校卒業者の就職率 95.1% （※全国：98.0%） （就職者の就職希望者に対する割合） （2016（平成 28）年度）	・公立・私立高校卒業者の就職率 全国水準をめざす （2022 年度）

◇支援教育の充実

【事業概要】

障がいのある幼児・児童・生徒が個々のニーズに応じた適切な指導及び支援が受けられるよう、府立支援学校の地域支援リーディングスタッフ等が、公私立学校の教職員や保護者の教育ニーズに対応できる体制（地域支援体制）の整備を図る。

◇教員研修や学校現場での教員交流の実施

【事業概要】

公私双方の教員が参加できる研修や、府立高校・私立高校の相互授業見学会の開催など公私間の学校現場での交流を通じ、公私双方の教員の資質向上を図るとともに、各学校間で優れた取組みや成果を共有する。

【事業目標】

現状	目標
・相互授業見学会の開催 9校 (2017(平成29)年度)	・相互授業見学会の継続実施 (2018(平成30)年度から)

◇授業改善への支援

【事業概要】

☞ 教員研修の充実

府教育センターにおいて、教員の経験年数等のキャリアに応じた授業づくり研修を実施する。これらの研修を通して、生徒に知識や技能の伝達だけでなく、思考力・判断力・表現力等をはぐくむ授業や探究的な授業への工夫・改善を促進し、「主体的・対話的で深い学び」の充実を図る。

また、研修を通じて、学びの成果として「何が身に付いたか」に関する学習評価のあり方やその評価方法等を改善・充実させる。

☞ 校内研究の推進

府立学校が組織的な授業改善を図ることができるよう、府教育センターによるパッケージ研修支援等を継続的に実施し、校内研修のための資料やその具体的活用方法を提供することで、校内体制づくりや教員全体の授業力向上を図る。

【事業目標】

現状	目標
・「主体的・対話的で深い学び」が学校現場で定着するための授業づくり研修を実施 (2017(平成29)年度)	・「主体的・対話的で深い学び」が学校現場で定着するための授業づくり研修受講者の肯定的評価 90%以上 (2018(平成30)年度から)
・府立高校に対し、パッケージ研修を実施 10校 (2017(平成29)年度)	・2018(平成30)から2022年度までに延べ75校でパッケージ研修を実施

◇教育相談等による課題を抱える子どもへの支援

【事業概要】

府教育センターにおける学校教育相談機能の充実を図るとともに、大阪府高等学校教育支援センターにおいて、心理的又は情緒的な原因により不登校状態にある府内の高校に通う生徒に対し、在籍校との連携のもと学校復帰をめざした学習支援や心理支援等を行う。

基本方針 2 公私の切磋琢磨により高校の教育力を向上させます

(2) 活力あふれる府立高校づくりをすすめます

基本的方向

- グローバル社会で活躍できる人材の育成やセーフティネットの整備など社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実をすすめます。
- キャリア教育や不登校・中途退学への対応など生徒一人ひとりの自立を支える教育を充実します。
- 計画的な施設整備や ICT 環境の充実により、府立高校の教育環境の整備をすすめます。
- 府立高校の新たな特色に応じて、中学生にとってより一層公平でわかりやすい入学者選抜制度とします。
- 各校の教育内容の充実を図るとともに、将来の生徒数等を勘案した効果的かつ効率的な学校配置をすすめます。

後期事業計画の視点

前期事業計画に基づき、社会の変化やニーズに応じた活力ある府立高校づくりをすすめた結果、グローバルリーダーズハイスクールにおいて大学進学、TOEFL iBT 等外部検定試験の実績が上がるなど、取組みの成果が見られる。また、基礎からの学び直しを行い、社会で活躍する力を身に付けるエンパワメントスクールについては、生徒の欠席者数や遅刻者数が大きく減少するなど、着実に取組みの成果をあげている。

後期事業計画期間においては、子どもがこれからの変化の激しい時代を生き抜く力を身に付けることができるよう、各府立高校で特色ある教育をさらに充実させる必要がある。

また、置かれている環境にかかわらず、生徒が社会的経済的に自立して生きていく力を身に付けることができるよう、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門人材の活用による支援を充実させており、府立高校全日制課程における生徒の中退率が改善傾向にあるなどの成果も表れ始めている。生徒一人ひとりの自立を支える教育のさらなる充実に向け、課題を抱える生徒への支援などの取組みをすすめていくことが求められている。

実現をめざす主な指標

指 標	現 状 値	目 標 値
学校教育自己診断における 生徒の学校生活満足度	70%を上回った学校 132校/184校 (2016(平成28)年度)	増加させる (2022年度)
府立高校卒業者の就職率(就 職者の就職希望者に対する 割合)	95.1%(※全国:98.0%) (2016(平成28)年度)	全国水準をめざす (2022年度)
府立高校全日制課程の生徒 の中退率	1.3%(※全国:0.8%) (2016(平成28)年度)	全国水準をめざす (2022年度)
府立高校における不登校生 徒数の千人率	35.2人(※全国:16.4人) (2016(平成28)年度)	全国水準をめざす (2022年度)

◇グローバルリーダーズハイスクールの充実

【事業概要】

2018（平成30）年度にグローバルリーダーズハイスクール10校すべてを文理学科にし、大学等と連携しながら課題研究の充実を図るなどさらなるパフォーマンスの向上をめざす。また、「確かな学力の育成」「豊かな人間性の涵養」「高い志と進路実現」を柱とした海外スタディツアー、文武両道を実践する活発な部活動、各界リーダーによる講演会など、特色ある取組みを引き続き実施し、知識を基盤とするこれからのグローバル社会をリードする人材を育成する。

さらに、毎年度、外部有識者によるパフォーマンス評価を行い、検証・改善のPDCAサイクルによる事業展開を行うとともに、3年に一度、総合的評価に基づき、指定校を再検討し、取組みの一層の活性化を図る。

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"> グローバルリーダーズハイスクールにおける現役での国公立大学進学率 38.2% (2016(平成28)年度) 	<ul style="list-style-type: none"> グローバルリーダーズハイスクールにおける現役での国公立大学進学率 40% (2022年度)
<ul style="list-style-type: none"> 国際科学オリンピックなど、国際大会（コンクール、コンテストなど）への出場者数 2名 (2016(平成28)年度) 	<ul style="list-style-type: none"> 国際科学オリンピックなど、国際大会（コンクール、コンテストなど）への出場者数 5名 (2022年度)
<ul style="list-style-type: none"> スーパーグローバル大学（トップ型）指定校及びグローバルサイエンスキャンパス採択校(合計21大学)への進学者数（現役生+既卒生（一年浪人まで）） 1,190人 (2016(平成28)年度) 	<ul style="list-style-type: none"> スーパーグローバル大学（トップ型）指定校及びグローバルサイエンスキャンパス採択校(合計21大学)への進学者数（現役生+既卒生（一年浪人まで）） 1,300人 (2022年度)

◇国際関係学科の充実

【事業概要】

豊かな語学力、コミュニケーション能力、論理的思考力や健全な批判力を身に付け、国際的に活躍できる「グローバル人材」を育成するため、「国際科（グローバル科）」において特色ある学校設定科目を開講し、論理的思考力や批判的思考力、発想力の育成や英語運用能力の向上をめざした取組みをすすめる。

また、国際教養科及び国際文化科では、語学力の向上はもとより、世界の国の文化や伝統を理解し尊重する態度、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力の育成などの取組みをすすめる。

今後、国際関係学科それぞれの優れたところをさらに生かした新たな方向性について、学科名の統一や教育内容の充実を含めて検討する。

◇新たな専門コースの設置や改編

【事業概要】

生徒の多様な学習と進路選択を実現するため、社会のニーズに対応した新たな専門コースについて設置や改編の必要性を検討する。

◇工科高校の充実

【事業概要】

引き続き、工科高校を高大連携重点型、実践的技能養成重点型、地域産業連携重点型に指定し、各校の強みを生かした人材育成をすすめ、府におけるものづくり教育の活性化に向けて教育内容の一層の充実を図る。教育内容の充実にあたっては、最先端の技術の習得と安全性の確保を図るため、老朽化した施設・設備の計画的な更新や新規整備をすすめる。

さらに、企業実習や技術者の招聘を推進するとともに、産業界・大学と協力・連携した企業への教員派遣研修を行う。

【事業目標】

現状	目標
・工科高校2・3年在籍総生徒数に対する製造現場で有効な国家資格・公的資格・民間資格の取得総件数の割合 1.11 件/人 (2016 (平成 28) 年度)	・工科高校2・3年在籍総生徒数に対する製造現場で有効な国家資格・公的資格・民間資格の取得総件数の割合 1.20 件/人 (2022 年度)
・進学専科の理工系大学進学率 57.3% (2016 (平成 28) 年度)	・進学専科の理工系大学進学率 65.0% (2022 年度)

◇農業高校の充実

【事業概要】

都市近郊における農業教育の特性を踏まえ、農業の6次産業化や都市緑化等に対応するため、企業連携等による教育内容の充実と、老朽化した施設・設備の整備をすすめる。

また、進学等の進路希望に対応するため、大学等との連携や土曜日の教育活動の推進に取り組む。

◇大阪府教育センター附属高等学校の充実

【事業概要】

公立大学法人大阪府立大学等の外部機関との連携のもと、学校設定教科の科目「探究ナビ」を中心に、教科横断的な探究活動や、人としてのあり方・生き方を探究するキャリア教育の充実など、教育内容の深化を図るとともに、その評価手法について研究する。

また、時代の先端をいく実践・研究を展開することにより、教員の指導力の向上を図るとともに、その成果を府内に普及させることで、府内全体の教育活動の充実をめざす。

◇エンパワメントスクールの充実

【事業概要】

これまで取り組んできた学び直しの支援や社会で活躍する力をはぐくむ教育のより一層の充実を図るため、教員の授業力向上のための研修や情報交換会を行う。

また、専門人材を活用し、生徒の進路実現を支援するとともに、生活面での課題を抱える生徒の就学を支援する。

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"> ・進路決定率 一 ※2016（平成28）年度時点では、エンパワメントスクール改編後の卒業実績なし。 〔【参考】開校済の6校の平均進路決定率 84.2%〕 （2016（平成28）年度） ・欠席者数及び遅刻者数の減少率 （改編前年度と比較対象年度の1年次生についての減少率） 欠席：47.8%（各校平均） 遅刻：55.4%（各校平均） （2016（平成28）年度） ・学校生活満足度 63.4%（各校平均） （2016（平成28）年度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路決定率 各学校95%以上 （2022年度） ・欠席者数及び遅刻者数の減少率 （改編前年度と比較対象年度の1年次生についての減少率） 欠席：60%以上（各校平均） 遅刻：60%以上（各校平均） （2022年度） ・学校生活満足度 各学校80%以上 （2022年度）

◇通信制の課程の充実

【事業概要】

桃谷高校通信制の課程（昼間部）における志願倍率が高い水準で推移していることや、私立の通信制高校の生徒数も近年増加傾向にあることから、今後の私立の通信制高校の動向も見極めながら、府立の通信制高校のあり方について検討し、志願者のニーズに十分応えられるよう充実を図る。

◇教員相互の授業見学や生徒の授業アンケートを活用した授業改善

【事業概要】

府立高校において、「わかる授業」「魅力ある授業」を実現し、生徒の学力向上を図るため、教員が相互に授業見学や研究授業を行うとともに、生徒からの授業アンケートを効果的に活用する。研究協議やアンケート結果による授業における課題の洗い出し、課題に対する改善方策の策定、改善状況の把握・検証を行うなど、授業改善に向けた取組みを組織的にすすめる。

また、各校の授業改善に向けた取組みに対して、府教育センターが校内研修の支援を実施し、分析結果の活用について指導・助言を行う。

◇「デュアル実習」によるキャリア教育の推進

【事業概要】

「社会人基礎力」を身に付け、社会の構成員として必要な力を備えた人材を育成するため、地域の事業所等で、週1日全日の職業体験を行うことにより、仕事や社会の仕組みなどを学ぶ「デュアル実習」を実施する。

◇「夢や志をはぐくむ教育」の推進

【事業概要】

府立高校において、「志（こころざし）学」を基礎として、社会参加のための知識やスキル・価値観を育成する取組みを行い、夢や志を持ち、よき社会人として社会の発展に寄与する態度をはぐくむ。

◇中途退学防止・不登校減少の取組み【一部再掲】

【事業概要】

☞府立高校における中退防止対策・不登校減少の取組みの推進

中途退学の防止や不登校の減少を図るため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用した教育相談体制の充実を図る。

また、中途退学の課題の大きな高校において、中高連携の窓口や校内組織の中核を担う中退防止コーディネーターを指名し、全教職員による指導体制を確立するとともに、中退防止コーディネーターのネットワーク化を図り、各校の課題や効果的な取組みに関する情報の共有化を図る。とりわけ中退率の高い高校を重点取組校として指定し、個別に分析を行い、改善の方策を構築する。

さらに、すべての府立高校において、中退防止や不登校の減少に効果のあった取組みをまとめた冊子「中退の未然防止のために」（改訂版）の活用を図る。

☞課題を抱える生徒への支援

貧困をはじめとする様々な課題を抱える生徒が、能力や可能性を伸ばすことができるよう、学校の特色に応じた外部人材等を活用した支援を行う。

☞府教育センターにおける相談機能の充実や大阪府高等学校教育支援センターの充実

府教育センターにおける学校教育相談機能の充実を図るとともに、大阪府高等学校教育支援センターにおいて、心理的又は情緒的な原因により不登校状態にある府内の高校に通う生徒に対し、在籍校との連携のもと学校復帰をめざした学習支援や心理支援等を行う。

（「基本方針2（1）：公私が力を合わせて高校の教育力向上をすすめます」参照）

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"> 府立高校における不登校児童・生徒数の千人率 高：35.2人（※全国：16.4人）（2016（平成28）年度） 中退防止コーディネーターの配置 34校（2017（平成29）年度） 府立高校にスクールソーシャルワーカーを配置 21校（2017（平成29）年度） 	<ul style="list-style-type: none"> 府立高校における不登校児童・生徒数の千人率 全国水準をめざす（2022年度） 中途退学が多い高校に対して、中退防止コーディネーターを配置（2018（平成30）年度から） スクールソーシャルワーカーによる教育相談体制の充実（2022年度）

◇障がいのある生徒の高校生活支援の充実

【事業概要】

障がいのある生徒の府立高校への入学が増加する中、スクールカウンセラーや看護師など、専門的知識を有する支援員（エキスパート支援員）や看護師を学校に配置し、直接障がいのある生徒の心身のケアや支援を行うほか、教員に対して障がいのある生徒の対応・支援のための助言やコンサルテーションを行う。

また、学校生活支援員（介助員、学習支援員）を配置し、生徒の生活介助やメモ取りなどの学習支援を行う。

さらに、府立高校において、高校生活支援カードを活用し、障がいのある生徒の状況や保護者のニーズを把握し、生徒、保護者、中学校の想いを受け止め、高校卒業後の社会的自立に向けて学校生活を送れるよう適切な指導・支援の充実を図る。

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"> ・全府立高校にスクールカウンセラーを配置 ・学校生活支援員（介助員） 29 校 ・学校生活支援員（学習支援員） 38 校 （いずれについても 2017（平成 29）年度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーや介助員、学習支援員を希望する全府立高校に配置 （2018（平成 30）年度から）
<ul style="list-style-type: none"> ・障がいにより配慮を要する生徒が在籍する府立高校のうち、「個別の教育支援計画」を作成している学校の割合 86.8% （2016（平成 28）年度） ・障がいにより配慮を要する生徒が在籍する府立高校のうち、「個別の指導計画」を作成している学校の割合 86.3% （2016（平成 28）年度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいにより配慮を要する生徒が在籍する府立高校のうち、「個別の教育支援計画」を作成している学校の割合 100%をめざす （2022 年度） ・障がいにより配慮を要する生徒が在籍する府立高校のうち、「個別の指導計画」を作成している学校の割合 100%をめざす （2022 年度）

◇長期入院している生徒等への学習支援

【事業概要】

修学的意思を持ち学習意欲があるにもかかわらず、病気やけがにより長期間登校できない府立高校生に対して、在籍校の教員が病院へ出向き状況に応じた授業を行うことにより、生徒への学習支援を行う。

また、ICT を活用して病院や在宅等から学校の授業に双方向の通信で参加することができる遠隔授業サポートシステムを運用することにより、学習における生徒の負担を軽減し、登校（復帰）後も学業にスムーズに参加できるよう支援を行う。

◇学校運営協議会による保護者・地域ニーズの反映【再掲】

【事業概要】

全府立学校に保護者、地域の住民、学校の運営に資する活動を行う者、学識経験者、その他の関係者からなる学校運営協議会を設置し、学校運営の基本的な方針の承認やその意見を踏まえた学校経営計画の策定及び学校評価を行うことにより、保護者や地域の住民との連携協力と学校運営への参加を促進し、そのニーズを学校教育に反映する。

また、府立学校の教員の授業その他の教育活動に関する保護者からの意見の申し出に関し、学校運営協議会において調査審議し、学校に対し適切な対応を意見具申する。

（「基本方針 7：学校の組織力向上と開かれた学校づくりをすすめます」参照）

◇専門的知識を有する社会人の積極的な活用

【事業概要】

教育内容の多様化と特色ある学校づくりの一環として、文化部活動等において、地域や社会の各界で活躍する優れた技能や専門的な知識を有する社会人の活用を図るとともに、演奏家による技術指導など、教員では担当できない授業において、教員免許状を持たない外部人材の活用を図る。

◇中高一貫教育の取組み

【事業概要】

2017（平成 29）年4月に開校した府立富田林中学校・高等学校において、6年間を通じた指導の一貫性や系統性を持った教育を行い、「グローバルな視野とコミュニケーション力」、「論理的思考力と課題発見・解決能力」、「社会貢献意識と地域愛」の3つの資質を育成する。

また、連携型中高一貫教育についても、これまでの取組みをもとに、効果的な教育をすすめていく。

◇高大連携の推進

【事業概要】

公立大学法人大阪府立大学をはじめ、包括連携協定を締結している大学との連携を活用し、府立高校全体の教育の質の向上につなげる。

その際、生徒が高等教育機関で学ぶことへの興味・関心や進学意欲を高められるよう、大学キャンパスでの学習機会や大学からの出前授業の活用をすすめる。

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none">府教育委員会との包括協定を締結している大学 25 大学 (2017 (平成 29) 年度)高大連携実施校の割合 79.9% (2016 (平成 28) 年度)	<ul style="list-style-type: none">府教育委員会との包括協定を締結している大学 30 大学 (2022 年度)高大連携実施校の割合 85.0% (2022 年度)

◇府立学校施設の耐震性能向上【再掲】

【事業概要】

府立学校については、施設・設備の既存ストックを最大限に有効活用するために、2018（平成30）年度末までに非構造部材の耐震対策を実施する。

（「基本方針8：安全で安心な学びの場をつくります」参照）

◇府立学校の老朽化対策と空調設備等の整備の推進【再掲】

【事業概要】

府立学校の校舎等については、築年数が40年を超えるものが5割以上を占めるなど、老朽化が深刻な状況であることから、「府立学校施設整備方針」に基づき個別施設計画を2018（平成30）年度に作成することとしており、コストの低減化を図りつつ、計画的に改修・改築をすすめる。

また、府立学校の空調設備を計画的に更新するとともに、バリアフリー化やトイレ設備の改修に取り組むなど、府立学校の教育環境の改善を図る。特に、トイレ設備の改修については、2019年度末までに、未改修の府立高校のトイレ改修を完了する。

（「基本方針8：安全で安心な学びの場をつくります」参照）

◇府立学校のICT環境の充実による「わかる授業」の実現【一部再掲】

【事業概要】

教科指導等におけるICT活用及びICT環境整備をすすめることで、生徒の学習意欲を高め、「わかる授業」の実践を図る。

また、府立学校において、生徒の成績や出欠管理、教職員の出勤や給与情報の管理など、校務のICT化を実現した「統合ICTネットワーク」について、サーバやパソコンの更新を行うとともに学校情報ネットワークとの連携を図るなど、より安全で使いやすいICT環境の実現を図る。

（「基本方針7：学校の組織力向上と開かれた学校づくりをすすめます」参照）

重点取組⑪

公平でわかりやすい入学者選抜の実施

◇調査書評定の公平性の確保

【事業概要】

府立高校の入学者選抜に用いる調査書評定の公平性の確保に向けて、府と市町村が協力して、各校における評価について検証し改善をすすめるなど、各校における評定が府全体の学習評価の状況に照らして適正であることを確認するための支援を行う。

◇中学校における進路指導の充実

【事業概要】

各地区の進路指導の核となる中学校を中心とした、進路指導情報の蓄積と情報共有により、引き続き中学校における進路指導の充実を図る。

重点取組⑫

活力ある学校づくりをめざした府立高校の再編整備

◇府立高校の再編整備の計画的な推進

【事業概要】

今後の生徒数の減少を見据えた「府立高等学校再編整備方針」に基づいて行ってきたこれまでの取組みを検証しつつ、社会のニーズを踏まえた教育内容の充実と活力ある学校づくりをめざして、引き続き府立高校の再編整備をすすめる。

基本方針 2 公私の切磋琢磨により高校の教育力を向上させます

(3) 特色・魅力ある私立高校づくりを支援します

基本的方向

- 家庭の経済的事情にかかわらず、自らの希望や能力に応じて自由に学校選択できる機会を提供するため、私立高校生等に対する授業料無償化制度を実施します。あわせて、効果検証を行い、今後の制度検討を行います。
- 私立高校が、それぞれの建学の精神に基づき、社会の変化や府民の教育ニーズに対応した特色・魅力ある教育を行えるよう、私学教育の振興を図るとともに、公私がより共通の土俵で競い合える環境づくりに努めます。

教育長の権限事務

後期事業計画の視点

府においては、私立高校生等に対する授業料無償化制度の実施により、制度創設前と比べ私立高校に進学する割合が増加するなど、経済的理由を問わず生徒が自由に学校選択することを可能にしている。前期事業計画期間では、私立高校全日制課程の生徒の中退率が目標年度を大幅に前倒して全国水準を下回り、私立高校に対する保護者の満足度も上昇するなどの成果が出ている。

今後とも、私立高校が、それぞれの建学の精神に基づき、社会の変化や府民の教育ニーズに対応した特色・魅力ある教育を行えるよう支援していくことが必要である。

実現をめざす主な指標

指 標	現 状 値	目 標 値
私立高校に対する生徒・保護者の満足度	73.1% (2016 (平成 28) 年度)	向上させる (2022 年度)
私立高校の教員が信頼できると答えた生徒の割合	68.7% (2016 (平成 28) 年度)	向上させる (2022 年度)
私立高校全日制課程の生徒の中退率	1.1% (2016 (平成 28) 年度)	全国水準の維持をめざす (2022 年度)
私立高校卒業生(全日制)の大学進学率	73.0% (2016 (平成 28) 年度)	向上させる (2022 年度)
私立高校卒業生の就職率(就職者の就職希望者に対する割合)	92.4% (※全国: 97.7%) (2016 (平成 28) 年度)	全国水準をめざす (2022 年度)

教育長の権限事務

◇高校の授業料等に係る支援【再掲】

【事業概要】

☞高等学校等就学支援金制度

高等学校等における教育に係る経済的負担の軽減を図り、もって教育の機会均等に寄与するため、高等学校等の生徒などがその授業料に充てるものとして就学支援金を支給する。

☞私立高校生等に対する授業料に係る支援

生徒が、中学校卒業時の進路選択段階で、私立の高校や高等専修学校等についても自らの希望や能力に応じて自由に学校選択できる機会を保障するとともに、切磋琢磨しながら大阪の教育力向上を図る観点から、2023年度入学生までを対象に多子世帯の保護者負担に軽減を図るとともに、効果検証を行い、国の動向も見極めつつ、その後の制度の検討を行う。

教育長の権限事務

☞奨学のための給付金制度

高等学校等に在学するすべての意思のある生徒が安心して教育を受けられるよう、府内に在住する低所得世帯の保護者等に対し、授業料以外の教育費の負担軽減を目的として、奨学のための給付金を支給する。

☞学び直しのための支援金制度

高等学校等を中途退学した者が再び高等学校等で学び直す場合に、高等学校等就学支援金の支給期間36月（定時制・通信制は48月）の経過後であっても、卒業までの間（最長2年）就学支援金相当額を支給し、授業料の負担軽減を図る。

（「基本方針2（1）：公私が力を合わせて高校の教育力向上をすすめます」参照）

◇優れた取組みを実践する学校に対する支援

【事業概要】

建学の精神に基づき特色・魅力ある教育を行っている私立高校を振興するとともに、大阪の教育力向上のために、優れた取組みを実践する学校を支援する。

また、「大阪府全日制高等学校等設置認可に関する審査基準」等に基づき、特色ある教育を行う私立学校の設置認可申請書類の審査に際し、各校選択肢の一層の充実を図るなど、私学教育の多様化と学校間の切磋琢磨を促進する。

教育長の権限事務

◇キャリア教育の充実【再掲】

【事業概要】

高校と専門学校、企業、外部人材との連携強化を図り、職業適性診断や職業体験、インターンシップなど、各校の生徒のニーズに応じたキャリア教育・職業教育プログラムを実践し、生徒の勤労観・職業観の醸成や「社会人基礎力」の習得を支援する。

（「基本方針 2（1）：公私が力を合わせて高校の教育力向上をすすめます」参照）

基本方針 3 障がいのある子ども一人ひとりの自立を支援します

基本的方向

- 「ともに学び、ともに育つ」教育をさらに推進し、支援を必要とする幼児・児童・生徒の増加や多様化に対応した教育環境の整備をすすめます。
- 障がいのある子どもの自立と社会参加の促進に向け、関係機関と連携し、就労をはじめとした支援体制を充実します。
- 「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の活用を促進し、幼・小・中・高の発達段階の連続性を大切に一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を充実します。
- 関係部局が連携し、発達障がいのある子どもへの一貫した支援を充実します。
- 私立学校における障がいのある子どもが安心して学べる学校づくりの支援に努めます。

後期事業計画の視点

知的障がい支援学校に在籍する児童・生徒数の増加に対応するため、前期事業計画期間において、府内 4 地域に支援学校を新たに整備した。しかし、2016（平成 28）年 4 月に大阪市立特別支援学校 12 校を府に移管したことに伴い、同年度に実施した大阪府域を含む府立支援学校における知的障がい児童・生徒数の将来推計の結果、今後 10 年間で約 1,400 人の増加が見込まれることから、知的障がいのある児童・生徒の教育環境の充実が求められている。

また、これまでも知的障がいのある生徒が高校で学ぶ、知的障がい生徒自立支援コースと共生推進教室の充実を図ってきたが、2017（平成 29）年 3 月に 10 年間の取組みをとりまとめ、その成果が認められたことから、今後、募集人員の増などの制度の具体的な検討を行い、一層の充実を図る必要がある。

併せて、高校における通級による指導が 2018（平成 30）年度から新たに制度化され、実施できるようになったことから、高校における通級指導の取組みをすすめていく必要がある。

一方で、知的障がい支援学校の卒業生の就職率は全国平均と比べ依然隔たりがあることから、一層の支援体制の充実を図り、障がいのある子どもの自立と社会参加を促進する必要がある。

さらに、新学習指導要領などの国の動向を踏まえ、教員の専門性の向上や幼児・児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた一貫した支援をすすめていく必要がある。

実現をめざす主な指標

指 標	現 状 値	目 標 値
知的障がい支援学校高等部卒業生の就職率	26.2% (2016(平成28)年度)	35%をめざす (2022年度)
府立支援学校高等部卒業生の就職希望者の就職率	91.6% (2016(平成28)年度)	100%をめざす (2022年度)
公立小・中学校で通級による指導を受けている児童・生徒の「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成率	<ul style="list-style-type: none"> • 個別の教育支援計画 小学校：80.7% 中学校：83.1% • 個別の指導計画 小学校：92.3% 中学校：86.8% (2016(平成28)年度)	<ul style="list-style-type: none"> • 個別の教育支援計画 小学校：100%をめざす(2020年度) 中学校：100%をめざす(2021年度) • 個別の指導計画 小学校：100%をめざす(2020年度) 中学校：100%をめざす(2021年度)

◇府立支援学校の教育環境の充実

【事業概要】

府立支援学校における知的障がい児童・生徒数の増加に対応するため、2016（平成28）年度に実施した府立支援学校における知的障がい児童・生徒数の将来推計の結果を踏まえ、知的障がいのある児童・生徒の教育環境を充実させる。

◇通学時間の短縮に向けた通学バスの充実

【事業概要】

各学校の児童・生徒数の状況等を勘案し、通学バスの増車や有料道路の活用を含む効率的なコース編成等により、長時間乗車による児童・生徒の負担を軽減する。

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"> ・60分を超える乗車時間を要する児童・生徒が3.9% (2017（平成29）年度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全児童・生徒の乗車時間：60分以内 (2022年度)

◇支援学級・通級指導教室の充実

【事業概要】

☞支援学級の充実

支援学級に在籍する児童・生徒の障がいの多様化・重度化が進む中、障がい種別による支援学級の設置を促進するとともに、支援学校におけるセンター的機能を活用し、小・中学校への訪問相談等により教職員の専門性向上を支援する。

☞通級指導教室の充実

小・中学校の通常の学級に在籍する障がいのある児童・生徒への指導・支援の充実を図るため、通級指導教室の設置をすすめる。

また、2018（平成 30）年度から高等学校における通級による指導が制度化されたことを受け、高校に在籍する障がいのある生徒への指導・支援の充実を図るため、府立高校における通級による指導の取組みをすすめる。

【事業目標】

現状	目標
【支援学級】 ・複数の障がい種別が混在する支援学級 小学校：2.07%、中学校：3.17% (2017（平成 29）年度)	・障がい種別による支援学級の設置の促進 (2022 年度)
【通級指導教室（公立小・中学校）】 ・41 市町村において、206 教室 (小学校：156 教室、中学校：50 教室) (2017（平成 29）年度)	・基礎定数化による通級指導教室の充実 (2022 年度)
【通級による指導（府立高校）】 ・国事業において、府立 1 校でモデル実施 (2017（平成 29）年度)	・通級による指導の充実 (2022 年度)

◇医療的ケアを実施する体制整備の支援

【事業概要】

支援学校において、高度な医療的ケアに対応するため、医療との連携をすすめるなど、医療的ケア実施体制の整備を支援する。

また、小・中学校における安心・安全な医療的ケアの実施体制の整備を支援する。

◇自立支援推進校、共生推進校の充実と、その成果の高校全体への普及

【事業概要】

府立高校において「ともに学び、ともに育つ」教育を推進するため、知的障がい生徒自立支援コースの募集人員の増や新たな共生推進教室の設置など、自立支援推進校、共生推進校のさらなる充実について検討する。

また、自立支援推進校等4校を支援教育サポート校として、訪問相談や研究授業の開催などにより、自立支援推進校等で培われた教科指導等のノウハウを高校全体に普及する。

◇障がいのある生徒の高校生活支援の充実【再掲】

【事業概要】

障がいのある生徒の府立高校への入学が増加する中、スクールカウンセラーや看護師など、専門的知識を有する支援員（エキスパート支援員）や看護師を学校に配置し、直接障がいのある生徒の心身のケアや支援を行うほか、教員に対して障がいのある生徒の対応・支援のための助言やコンサルテーションを行う。

また、学校生活支援員（介助員、学習支援員）を配置し、生徒の生活介助やメモ取りなどの学習支援を行う。

さらに、府立高校において、高校生活支援カードを活用し、障がいのある生徒の状況や保護者のニーズを把握し、生徒、保護者、中学校の想いを受け止め、高校卒業後の社会的自立に向けて学校生活を送れるよう適切な指導・支援の充実を図る。

（「基本方針 2（2）：活力あふれる府立高校づくりをすすめます」参照）

◇地域とともにある支援学校づくり

【事業概要】

府立支援学校の幼児・児童・生徒が、地域の幼・小・中・高等学校の幼児等と交流及び共同学習を行うことにより、地域における障がい者理解を促進し、地域とともにある支援学校づくりを行う。

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none">・居住地校（児童・生徒が居住する地域の学校）との交流を2人以上実施している学校の割合 小学部：88.9% 中学部：48.6% （2016（平成28）年度）・学校間交流をホームページに掲載している学校の割合 10.9% （2016（平成28）年度）	<ul style="list-style-type: none">・居住地校（児童・生徒が居住する地域の学校）との交流を2人以上実施している学校の割合 100%をめざす （2022年度）・学校間交流をホームページに掲載している学校の割合 100%をめざす （2022年度）

◇授業改善への支援

【事業概要】

☞ 教員研修の充実

府教育センターにおいて、教員の経験年数等のキャリアに応じた授業づくり研修を実施する。これらの研修を通して、児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに合わせた授業づくりや、知識・技能の伝達だけでなく、思考力・判断力・表現力等をはぐくむ授業への工夫・改善を促進し、「主体的・対話的で深い学び」の充実を図る。

また、研修を通じて、学びの成果として「何が身に付いたか」に関する学習評価のあり方やその評価方法等を改善・充実させる。

☞ 校内研究の推進

府立学校が組織的な授業改善を図ることができるよう、府教育センターによるパッケージ研修支援等を継続的に実施し、校内研修のための資料やその具体的活用方法を提供することで、校内体制づくりや教員全体の授業力向上を図る。

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none">・授業づくり研修の実施 (2017(平成29)年度)・「府立支援学校パッケージ研修支援」の実施 6校 (2017(平成29)年度)	<ul style="list-style-type: none">・授業づくり研修受講者の肯定的評価 90%以上 (2018(平成30)年度から)・「授業づくりガイドブック」を活用したパッケージ研修支援を実施 2018(平成30)年度から2022年度までで延べ30校

◇職業学科を設置する知的障がい高等支援学校を中心とした就労支援体制の構築

【事業概要】

大阪市から移管した知的障がい支援学校高等部に「職業コース」を設置するとともに、職業学科を設置する知的障がい高等支援学校を就労支援の拠点に位置付け、企業開拓、職場実習支援、企業情報の収集・提供を柱とするサポート体制を充実することにより、府立支援学校における就労支援の充実を図る。

また、早期からのキャリア教育の充実により、小学部・中学部・高等部を通じた系統的な職業教育を実施し、地域の福祉・労働機関等への移行支援を充実させ、卒業後の職場定着につなげる。

◇関係部局の連携による就労支援の充実

【事業概要】

☞就職希望者を対象とした就職支援

支援学校等に在籍する生徒で、卒業後の就職先が内定していない就職希望者を対象に企業実習など障がい者委託訓練を活用して、教育から一般就労への連続した就労支援を行う。

また、大阪障害者職業能力開発校、高等職業技術専門学校において職業訓練を実施するほか、府内6施設へ職業訓練を委託し、就職に向けた支援を行う。

☞府庁職場における職場実習の推進

府立支援学校、自立支援推進校・共生推進校が実施する職場実習について、府庁各部局で受入れを行う。

☞農を通じた就労支援の推進

支援学校の生徒等を対象に、府立環境農林水産総合研究所内福祉農園での農業体験や、農業生産法人等の現場での就労体験等を実施し、農を通じた就労支援を推進する。

【事業目標】

現状	知事の権限事務	目標
【職業訓練の実施】 ・大阪障害者職業能力開発校・高等職業技術専門校の障がいの者の職業訓練における就職率 85.6% (2016(平成28)年度) ・特別委託訓練における就職率 90.4% (2016(平成28)年度)		・大阪障害者職業能力開発校・高等職業技術専門校の障がいの者の職業訓練における就職率 80%以上を維持 (2018(平成30)年度から2021年度まで) ・特別委託訓練における就職率 80%以上を維持 (2018(平成30)年度から2021年度まで)
【府庁職場における職場実習の推進】 ・受入人数 18校22人 (2017(平成29)年度)		・受入人数 各支援学校1人 (2022年度)
【農を通じた就労支援の推進】 ・府立環境農林水産総合研究所での支援学校生徒の農業実習受け入れ 12回延べ180名 ・教員向け講習会 1回 ・教員に対する技術支援 12回 (いずれについても2017(平成29)年度)		・府立環境農林水産総合研究所での支援学校生徒の農業実習受け入れの継続 ・教員向け講習会の継続実施 ・教員に対する技術支援の継続実施 (いずれについても2018(平成30)年度から)

◇府立支援学校におけるセンター的機能の発揮

【事業概要】

地域で学ぶ障がいのある子どもの支援の充実に向けて、校内に地域支援室の整備をすすめるとともに、地域支援リーディングスタッフを配置し、訪問相談や来校相談、研修講師派遣等を行うことにより、地域の小学校・中学校等の専門性向上に向けた支援を行う。

さらに、府立支援学校のうち地域支援の核となる拠点校を地域バランスを考慮して設置し、センター的機能のさらなる充実を図る。

また、府立支援学校においては、在籍する幼児・児童・生徒の障がいの重度・重複化、多様化に対応するため、特別支援学校教諭免許状保有率を上げるなど、専門性のさらなる向上を図る。

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校教諭免許状保有率 67.3% (2017(平成29)年度) 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校教諭免許状保有率 100%をめざす (2020年度から)
<ul style="list-style-type: none"> 府立支援学校 31校に地域支援室を整備 (2017(平成29)年度) 拠点校モデルとして3ブロックが実施 (2017(平成29)年度) 	<ul style="list-style-type: none"> 全府立支援学校に「地域支援室」を整備 (2022年度) 全ブロックにおいて、拠点校に相談支援窓口を一本化し、多様化する支援要請に即応できる体制を構築 (2022年度)

◇支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実

【事業概要】

児童・生徒の教育的ニーズに応じた適切な支援を実施するため、すべての学校において校内委員会を組織的に活用するとともに、校内研修の企画・運営、関係機関との連絡調整等を行う支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実を図る。

◇「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の作成と活用促進

【事業概要】

福祉・医療・労働等の関係機関や専門家との連携・協力、本人・保護者等の参画のもと、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成・活用し、障がいのある幼児・児童・生徒一人ひとりのニーズに応じ、キャリア教育の観点を含めた指導など、乳幼児期から学校卒業後を見通した一貫した支援を行う。また、担当者向けの実践報告会を実施し、「個別の教育支援計画」等の作成・活用の促進を図る。

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"> ・府立支援学校に入学する児童・生徒の「個別の教育支援計画」等の引継ぎを行っている割合 就学前施設から小学部 1 年生：76.0% 小学校から中学部 1 年生：68.7% 中学校から高等部 1 年生：72.9% (2017 (平成 29) 年度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・府立支援学校に入学する児童・生徒の「個別の教育支援計画」等の引継ぎを行っている割合 いずれについても 100%をめざす (2022 年度)
<ul style="list-style-type: none"> ・「個別の教育支援計画」作成状況 公立小・中学校の支援学級：100% 公立小学校の通級指導教室：80.7% 公立中学校の通級指導教室：83.1% 障がいにより配慮を要する生徒が在籍する府立高校：86.8% (いずれについても 2016 (平成 28) 年度) ・「個別の指導計画」作成状況 公立小・中学校の支援学級：100% 公立小学校の通級指導教室：92.3% 公立中学校の通級指導教室：86.8% 障がいにより配慮を要する生徒が在籍する府立高校：86.3% (いずれについても 2016 (平成 28) 年度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「個別の教育支援計画」作成状況 いずれについても 100%をめざす 小学校：2020 年度 中学校：2021 年度 府立高校：2022 年度 ・「個別の指導計画」作成状況 いずれについても 100%をめざす 小学校：2020 年度 中学校：2021 年度 府立高校：2022 年度

◇通常の学級に在籍する発達障がい等のある児童・生徒等への支援【一部再掲】

【事業概要】

幼稚園や小・中学校において、すべての子どもにとって「わかる・できる」授業や保育、集団づくりに関する実践研究の成果を普及させることで、教員の授業指導力の向上を図るとともに、「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の作成・活用を図る。

府立高校においては、生徒の卒業後の自立した社会生活に必要な力の育成に向けた適切な支援の実践研究の成果を普及する。また、全府立高校において高校生活支援カードを活用し、生徒の状況や保護者のニーズを把握し、生徒、保護者、中学校の想いを受け止め、高校卒業後の社会的自立に向けて学校生活を送れるよう適切な指導・支援の充実を図る。

（「基本方針2（2）：活力あふれる府立高校づくりをすすめます」参照）

◇地域における支援体制の充実（発達障がい者支援センターの運営）

【事業概要】

発達障がい児（者）に対する支援を総合的に行う府内の拠点として、発達障がい者支援センターが本人及び家族からの相談に応じ、指導・助言を行うとともに、小・中学校や支援学校等の関係機関との連携による総合的な支援を行う。

【事業目標】

知事の権限事務

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"> 相談支援 3,504 件 関係機関への助言 181 件 外部機関や地域住民への研修・啓発 36 件 （いずれも 2016（平成 28）年度）	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援 3,500 件 関係機関への助言 160 件 外部機関や地域住民への研修・啓発 50 件 （いずれについても 2020 年度）

◇支援教育の充実にに向けた取組みの支援【一部再掲】

【事業概要】

障がいのある幼児一人ひとりのニーズに応じたきめ細かな支援の充実を図るため、私学団体とも連携しながら、私立幼稚園等教員の障がいへの理解を深めるための研修の充実を図る。

また、府内の私立幼稚園等に就園する障がいのある幼児の支援教育の充実及び教育条件の向上を図るため、設置者に対して支援する。

さらに、障がいのある幼児のニーズに応じた適切な指導及び支援が受けられるよう、府立支援学校の地域支援リーディングスタッフ等が、私立学校の教職員や保護者の教育ニーズに対応できる体制（地域支援体制）の整備を図る。

（「基本方針2（1）：公私が力を合わせて高校の教育力向上をすすめます」参照）

教育長の権限事務

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"> 支援教育に関する研修を受講した私立幼稚園等教諭 67.6%（隔年調査） （2015（平成27）年度） 	<ul style="list-style-type: none"> 支援教育に関する研修を受講した私立幼稚園等教諭 90% （2022年度）

基本方針4 子どもたちの豊かでたくましい人間性をはぐくみます

基本的方向

- 小・中・高一貫したキャリア教育を推進するとともに、地域と連携した体験活動や読書活動を充実し、粘り強くチャレンジする力をはぐくむ教育を充実します。
- 歴史や芸術・文化・学術等に関する教育を推進し、郷土への誇りや伝統・文化を尊重する心をはぐくみます。
- 民主主義をはじめとした社会のしくみについての教育を推進し、社会の一員として参画し貢献する意識や公共の精神を醸成します。
- 社会のルールを守り、違いを認め合い人を思いやる豊かな人間性をはぐくむ人権教育・道徳教育を推進します。
- 子ども自身の問題解決能力をはぐくむとともに、関係機関との連携や支援チームの活用等により、いじめや不登校等の生徒指導上の課題解決に向けた対応を強化します。
- 教員研修の実施など校内の指導体制を強化し、体罰等の防止に取り組みます。

後期事業計画の視点

前期事業計画に基づき、「全国学力・学習状況調査」結果の経年変化を見ると、「学校の決まりを守っている」と回答した小・中学生の割合が年々上昇するとともに、「高校・高等部での学習を通じて『人間関係』の大切さを学んだ」と回答した府立学校生の割合も増加するなど、子どもの規範意識や自己肯定感、人権感覚の涵養をはじめとする豊かな人間性をはぐくんできた。

生徒指導上の課題解決についても、課題の大きな小・中学校に対し、指導体制強化の取組みをすすめたことで、前期事業計画策定時に比べ暴力行為が減少するなど、一定の成果が出ている。しかし、暴力行為発生件数について、国平均と比べると依然として厳しい状況であり、小学校における課題が顕在化している状況にも対応する必要があることから、中学校区単位での取組みを強化するなど、さらなる取組みの推進が必要である。いじめについては、小・中・府立学校とともに、いじめ防止基本方針に基づき、学校や関係機関、団体が連携し、早期発見、早期対応の徹底を図ることが求められる。

実現をめざす主な指標

指 標	現 状 値	目 標 値
「将来の夢や目標を持っている」 児童・生徒の割合	小6：83.7%（※全国：85.9%） 中3：68.3%（※全国：70.5%） （2017（平成29）年4月調査）	向上させる （2022年度）
「ものごとを最後までやりとげたこ とがある」児童・生徒の割合	小6：94.3%（※全国：94.8%） 中3：93.5%（※全国：94.7%） （2017（平成29）年4月調査）	向上させる （2022年度）
「読書が好き」な児童・生徒の割 合	小6：47.1%（※全国：49.0%） 中3：39.3%（※全国：46.1%） （2017（平成29）年4月調査）	全国水準をめざす （2020年度）
「自分には良いところがある」児 童・生徒の割合	小6：74.9%（※全国：77.9%） 中3：65.6%（※全国：70.7%） （2017（平成29）年4月調査）	向上させる （2022年度）
「学校のきまりを守っている」児 童・生徒の割合	小6：89.1%（※全国：92.6%） 中3：93.2%（※全国：95.2%） （2017（平成29）年4月調査）	向上させる （2022年度）
「高校・高等部での学習を通して『自 分を大切にする』気持ちが高まった」 と回答した府立学校生の割合	59.1% （2016（平成28）年度）	向上させる （2022年度）
「高校・高等部での学習を通して『人 間関係』の大切さを学んだ」と回答し た府立学校生の割合	82.6% （2016（平成28）年度）	向上させる （2022年度）
「悩みや心配ごとがあるとき、相 談する相手がいない」と回答した 府立学校生の割合	7.2% （2016（平成28）年度）	減少させる （2022年度）
暴力行為の発生件数の千人率	小：5.4件（※全国：3.5件） 中：21.2件（※全国：9.2件） （2016（平成28）年度）	全国水準をめざす （2019年度）
不登校児童・生徒数の千人率	小：5.4人（※全国：4.7人） 中：35.7人（※全国：31.4人） 高：35.2人（※全国：16.4人） （2016（平成28）年度）	いずれについても全国水準をめざす （2022年度）
いじめの解消率	小：95.8% 中：92.1% 高：91.4% （2016（平成28）年度）	いずれについても100%をめざす （2022年度）

◇キャリア教育の推進【一部再掲】

【事業概要】

小・中学校においては、「大阪府キャリア教育プログラム」を活用した研修会の実施や先進事例の収集・発信等により、各中学校区でのキャリア教育全体指導計画に基づいた小・中9年間のキャリア教育プログラムの実践を促進する。

府立高校においては、専門学校や企業、外部人材との連携強化を図り、職業適性診断や職業体験、インターンシップなど、各校の生徒のニーズに応じたキャリア教育・職業教育プログラムを実践し、生徒の勤労観・職業観の醸成や「社会人基礎力」の習得を支援する。さらに、高校生活支援カードを活用し、生徒の状況や保護者のニーズを把握し、生徒、保護者、中学校の想いを受け止め、高校卒業後の社会的自立に向けて学校生活を送れるよう適切な指導・支援の充実を図る。

加えて、産業界等で構成する関西キャリア教育支援協議会と連携し、職場体験や職場見学、社会人講師等の派遣により、体験活動の充実を図る。

（「基本方針2（1）：公私が力を合わせて高校の教育力向上をすすめます」参照）

（「基本方針2（2）：活力あふれる府立高校づくりをすすめます」参照）

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"> 各中学校区におけるキャリア教育全体指導計画の作成率 94.1% (2016 (平成 28) 年度) 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育全体指導計画に基づいた取組みの共有 100%をめざす (2022 年度)
<ul style="list-style-type: none"> 府立高校卒業者の就職率 95.1% (※全国：98.0%) (就職者の就職希望者に対する割合) (2016 (平成 28) 年度) 	<ul style="list-style-type: none"> 府立高校卒業者の就職率 全国水準をめざす (2022 年度)

◇地域と連携した体験活動の推進

【事業概要】

放課後や週末等に、安全で安心な子どもの活動場所を確保するとともに、子どもの体験・交流活動等を地域社会全体で推進する。

また、大阪の自然や文化など様々な資源を活用して、子どもに農業体験、環境学習、文化体験などの体験活動の場を提供する。

知事の権限事務

【事業目標】

現状	目標
【環境学習】 ・水生生物センター来場者数 3,989人 （※大人含む） （2016（平成28）年度）	・水生生物センター来場者数 4,000人 （※大人含む） （2018（平成30）年度から）

◇子どもの発達段階に応じた読書環境の充実

【事業概要】

就学前においては、子どもへの読み聞かせを促進する取組みや読書活動の好事例の収集・発信などにより、保護者等に対し読書活動の大切さや意義について啓発をすすめ、子どもが本に出合うきっかけづくりを行う。

学校教育段階においては、公立図書館と学校図書館との連携、公立図書館における小中高生に対する取組みなどの好事例の収集・発信を行うとともに、子どもの読書活動を支える人材に対する研修・支援を行うことにより、子どもが本と出会い、親しむための読書環境づくりを推進する。

また、子どもの言語能力、情報活用能力等の育成を支え、「主体的・対話的で深い学び」を効果的にすすめる場として学校図書館の有効活用を推進する。

【事業目標】

現状	目標
・子どもの読書活動推進に関わる人を対象とする研修・講座等の実施 （2016（平成28）年度）	・子どもの読書活動推進に関わる人を対象とする研修・講座等の継続実施 （2018（平成30）年度から）
・公立図書館と連携を実施している学校の割合 小学校：89.4%、中学校：60.9% （2016（平成28）年度）	・公立図書館と連携を実施している学校の割合 小学校：95.0%、中学校：80.0% （2022年度）

◇近現代史をはじめとした歴史に関する教育の実施

【事業概要】

「地理・歴史」の科目において、近現代史を含む我が国や大阪の歴史に関する教育を推進する。その際、各学校においては、学習した内容が確実に定着するよう、教科等の指導における工夫・改善に取り組む。

◇歴史・文化にふれる機会の拡大

【事業概要】

☞埋蔵文化財を活用した学校教育の推進

府内の市町村及び府立博物館と連携し、小・中・高校等に対する出前授業や教員向け研修会等における講演、教材としての文化財資料パッケージの貸出、文化財をめぐる校外学習の実施など、埋蔵文化財を活用した学校教育を推進する。

☞世界文化遺産登録に向けた取組等の推進

百舌鳥・古市古墳群について、世界文化遺産登録に向けた取組みをすすめるとともに、大阪が世界に誇る文化財として活用するため、学校教育への普及に加え、保護者など親世代を含めた府民向けの講座を府内市町村と連携して推進する。

☞指定・登録文化財を活用した学校教育等の推進

文化財が持つ価値の発見を通じて郷土や歴史への理解を深めることができるよう、人形浄瑠璃文楽などの指定・登録文化財を活用した学校教育を推進する。

また、府内の市町村及び他府県と連携しながら、日本遺産認定に向けた取組みをすすめる。

☞水都大阪の体験・理解

大川さくらクルーズ及び鴨川クルーズなど、以下乗船料無料等により、小学生に船に乗る機会を提供し、**知事の権限事務** 郷土として発展してきた大阪への理解・愛着を深める。

【事業目標】

現状	目標
【埋蔵文化財の活用】 ・小・中・高等学校への出前授業・資料貸出等 9校 (2017(平成29)年度) ・市町村及び博物館と連携した出張講座・資料貸出等 40件 (2017(平成29)年度)	・小・中・高等学校への出前授業・資料貸出等 10校 (2018(平成30)年度から) ・市町村及び博物館と連携した出張講座・資料貸出等 40件 (2018(平成30)年度から)
【世界文化遺産登録】 ・市町村が実施する文化財講座等と連携した世界遺産講座、大学等と連携した世界遺産学習会及びPRの実施 13件 (2017(平成29)年度)	・市町村が実施する文化財講座等と連携した世界遺産講座、大学等と連携した世界遺産学習会及びPRの実施 10件 (2018(平成30)年度から)
【指定・登録文化財の活用】 ・大阪府内文化財件数(国指定・登録、府指定) 1,974件 (2017(平成29)年度)	・大阪府内文化財件数(国指定・登録、府指定) 2,000件 (2022年度)

◇民主主義など社会の仕組みに関する教育の推進

【事業概要】

小・中学校では、子どもの発達段階を踏まえ、身近なことから社会へ視野を広げつつ、「身近な生活と政治とのかかわり」、「地方自治」について学ぶことにより、社会の一員としての意識をはぐくむ教育を行うとともに、現場の優れた実践をまとめた事例集の活用を市町村教育委員会に働きかける。

府立学校においては、学習指導要領に基づき、「社会」や「公民」をはじめとする教科指導を実施するとともに、「夢や志をはぐくむ教育」や「志（こころざし）学」の充実により、生徒が社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質や能力を身に付け、社会に主体的に参画し、よりよい社会を創っていかうとする意欲や態度をはぐくむ。

また、国が作成した高校生向け副教材「私たちが拓く日本の未来」や「政治的教養を育む教育推進のためのガイドライン」を活用し、生徒が政治や選挙の意義、選挙の具体的な仕組みを理解し、現実社会の諸課題について多面的・多角的に考察し、公正に判断する力や協働的に追究し解決する力を身に付けることができるよう、政治的教養をはぐくむ教育を行う。さらに、教員向けの研修を実施することにより、政治的教養をはぐくむための指導を充実させる。

また、国旗・国歌について、学習指導要領に則り、子どもにその意義を理解させるとともに、それらを尊重する態度をはぐくむ。

◇道徳教育の推進

【事業概要】

「特別の教科 道徳」として、問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れ、子どもが自ら考え、議論する授業への改善・充実を図る。そのため、先進的に取り組んだ学校の事例を示すなど、研修を実施する。

高校においては、小・中学校における道徳教育の内容を踏まえつつ、「志（こころざし）学」をはじめ、すべての教科の中で道徳教育を推進し、社会人への第一歩としての規範意識を身に付けさせるとともに、豊かな情操や人間性の育成に取り組む。また、毎年、すべての府立高校に対して重点目標を中心とした道徳教育の全体計画の作成を求め、PDCA サイクルを踏まえた取組みの展開を図る。

【事業目標】

現状	目標
【公立小・中学校】 ・実践事例集の普及・活用に係る周知 （2017（平成 29）年度）	・府内すべての公立小・中学校で実践事例集を活用した授業を実施 （2022 年度）

◇「こころの再生」府民運動の推進

【事業概要】

「生命（いのち）を大切にする」「思いやる」「感謝する」「努力する」「ルールやマナーを守る」など、大人も子どもも忘れてはならない大切な「こころ」をもう一度見つめ直し、府民一人ひとりが身近な取組みを実践するよう、企業・民間団体等と連携し、「こころの再生」府民運動の普及・啓発に取り組むとともに、学校におけるあいさつ運動等の実施を支援する。

【事業目標】

現状	目標
・「こころの再生」府民運動の趣旨を踏まえた取組み（あいさつ運動を含む）を PTA や地域とともに実施している学校の割合 71% （2017（平成 29）年度）	・「こころの再生」府民運動の趣旨を踏まえた取組み（あいさつ運動を含む）を PTA や地域とともに実施している学校の割合 85% （2022 年度）

◇非行防止・犯罪被害防止に向けた取組み

【事業概要】

少年サポートセンターにおいて、非行少年の立ち直り支援等を行うとともに、犯罪への正しい理解や規範意識の醸成を図り、犯罪に巻き込まれないための対応などを身に付けてもらえるよう、府内の小学校高学年を対象とした「非行防止・犯罪被害防止教室」を開催するなど、少年非行の未然防止に努

知事の権限事務

【事業目標】

現状	目標
・非行防止・犯罪被害防止教室の実施小学校の割合 100%（政令市除く） （2016（平成28）年度）	・非行防止・犯罪被害防止教室の実施小学校の割合 100%（政令市除く）の維持 （2018（平成30）年度から）

◇人権教育の推進

【事業概要】

「人権教育基本方針」「人権教育推進プラン」に基づき、人権教育のための教材集・各種資料の活用促進や研修・報告会等の実施により、各学校における人権教育の一層の充実を図る。

また、研究校を指定し、児童・生徒の豊かな人権感覚の涵養と人権意識の高揚のための効果的な指導方法等に関する調査研究を行うとともに、研究成果の普及を図る。

【事業目標】

現状	目標
【公立小・中学校】 ・小・中学校における人権教育に関する研究授業の実施率 34.9% （2016（平成28）年度）	・小・中学校における人権教育に関する研究授業の実施率 100%をめざす （2022年度）
【府立高校】 ・「人権教育 COMPASS」活用率 100% （2016（平成28）年度）	・「人権教育 COMPASS」活用率 100%の維持 （2018（平成30）年度から）

◇国際理解教育等の推進

【事業概要】

国際化が進展する中であって、自国及び諸外国の文化や習慣等について理解を深め、互いに違いを認め合い、共に生きていく力を育成するため、海外の学校との国際交流の取組みを充実させる。

また、「在日外国人教育のための資料集―違いを認め合い 共に生きるために―」の活用促進を図り、在日外国人児童・生徒が自らの誇りや自覚を高め、自主活動を通じて、本名を使用できる環境の醸成に努めるなど、指導を一層工夫・改善する。

さらに、帰国・渡日児童・生徒に対しては、小・中学校への日本語指導対応加配教員の配置や、府立高校への教育サポーター・専門員の派遣、学校生活・進路情報等の多言語での提供など、学習・進路支援や就学支援等の充実を通じて、多文化共生の取組みを推進する。

【事業目標】

現状	目標
<p>【国際交流事業】 (府立高校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際交流事業 外国への修学旅行実施 33校 外国への研修旅行実施 48校 外国からの教育旅行の受入れ 53校 <p>(2016(平成28)年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流事業の継続実施 <p>(2018(平成30)年度から)</p>
<p>【在日外国人教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「在日外国人教育のための資料集」の活用率 公立小・中学校 72.2% 府立高校 89.0% <p>(2016(平成28)年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「在日外国人教育のための資料集」の活用率 公立小・中学校 100%をめざす 府立高校 100%をめざす <p>(2022年度)</p>
<p>【帰国・渡日児童・生徒への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語指導対応加配教員の配置(小中) 76名 (2017(平成29)年度) 教育サポーター登録者数 479名 派遣回数 595回 (2016(平成28)年度) 多言語による進路サポート情報 10言語 (2017(平成29)年度) 担当教員研修(小中) 3回(250名) (高校) 4回(111名) (2017(平成29)年度) 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語指導対応加配教員を引き続き配置(小中) (2018(平成30)年度から) 教育サポーター登録者数の増加 派遣回数の増加 (2022年度) 多言語による進路サポート情報の充実 (2022年度) 担当教員研修の充実 (2022年度)

◇障がい理解教育等の推進

【事業概要】

小・中学校については、教員研修等において、障がい理解教育の指導資料「『ともに学び、ともに育つ』支援教育のさらなる充実のために」や福祉教育指導資料集「ぬくもり」の活用を促進する。

府立高校においては、総合的な学習の時間や特別活動等を通じて、福祉施設へのボランティア体験を広げ、生徒の福祉マインドの醸成を図る。

また、児童・生徒等の障がいに対する理解の促進を図るため、「大阪ふれあいおりがみ」を配布するとともに、「心の輪 **知事の権限事務** 団体のポスター」を公募し、作品集を学校等に配布する。

さらに、教職員の障がい等に関する理解や認識を深め、学校の効果的な実践を共有するため幼・小・中・高校・支援学校対象の研修を実施する。

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"> ・全公立小・中学校、府立高校の全学級で障がい理解教育を実施 (2017(平成29)年度) ・幼・小・中・高校・支援学校対象の研修を実施 (2017(平成29)年度) ・府立高校における体験活動に重点をおいた福祉教育の実施状況 93.5% (2016(平成28)年度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全公立小・中学校、府立高校の全学級で障がい理解教育を引き続き実施 (2018(平成30)年度から) ・幼・小・中・高校・支援学校対象の研修受講者の肯定的評価 90%以上 (2018(平成30)年度から) ・府立高校における体験活動に重点をおいた福祉教育の実施 100%をめざす (2022年度)

◇学校による手話を学ぶ機会の提供

【事業概要】

「大阪府言語としての手話の認識の普及及び習得の機会の確保に関する条例」に基づき、聴覚障がいの有無にかかわらず、手話について学ぶ機会を提供する。

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"> ・社会人向け手話講座として府立聴覚支援学校4校の教員を対象とした講座を実施 (2017(平成29)年度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・府内難聴学級等にも拡大 (2022年度)

◇いじめ解決に向けた総合的な取組みの推進

【事業概要】

教員への研修等を通じて「いじめ対応プログラムⅡ」の普及を図り、子ども自身の問題解決能力を育成するとともに、「5つのレベルに応じた問題行動への対応チャート」の普及により、いじめをはじめとする問題行動への対応改善を行う。

また、スクールカウンセラーを全公立中学校に配置し、学校での教育相談体制の充実を図るとともに、全小・中学校を対象に年3回のいじめ状況調査を実施し、的確な実態把握と早期対応の推進を図る。

さらに、校長のリーダーシップによる迅速な対応を図るため、「いじめ対応プログラムⅠ」「いじめ対応マニュアル」の活用を推進するとともに、弁護士等の専門家をアドバイザーとして市町村教育委員会や学校へ派遣し、事案解決に向けた市町村教育委員会・学校の対応力を高める。

重篤な事案に対しては、校長OBや弁護士等からなる「緊急支援チーム」を派遣し、市町村教育委員会や福祉・警察機関等と連携した支援を行う。

インターネット上のいじめについては、府警察本部や公共機関、民間機関、市町村教育委員会から構成される「大阪の子どもを守るサイバーネットワーク」と連携し、事案の未然防止や早期解決を図る。

府立高校においては、「大阪府いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止フォーラム等を通じて、いじめ防止や早期発見、早期解決に組織的に取り組むための校内体制の充実を図る。

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"> 初任者研修及び生徒指導課題研修を実施 (2017(平成29)年度) いじめの解消率 小学校 : 95.8% 中学校 : 92.1% 府立高校 : 91.4% (2016(平成28)年度) 	<ul style="list-style-type: none"> 初任者研修及び生徒指導課題研修受講者の肯定的評価 90%以上 (2018(平成30)年度から) いじめの解消率 いずれについても100%をめざす (2022年度)

◇児童・生徒等に対する学校相談体制の充実

【事業概要】

スクールカウンセラーを全公立中学校及び全府立高校に配置し、併せて中学校区内の小学校における教育相談を実施することにより、児童・生徒の心のケアや保護者等の悩みの相談、教員への助言・援助等を行い、学校教育相談体制の一層の充実を図る。

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"> ・府内全中学校にスクールカウンセラーを配置 (2017(平成29)年度) ・全府立高校にスクールカウンセラーを配置 (2017(平成29)年度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーによる中学校区での教育相談体制の充実(2022年度) ・スクールカウンセラーによる全府立高校での教育相談体制の充実(2022年度)

◇福祉や警察など関係機関の連携による取組みの推進【一部再掲】

【事業概要】

学校と福祉をつなぐ専門家として、スクールソーシャルワーカー及びスクールソーシャルワーカースーパーバイザーを市町村教育委員会に派遣し、貧困など様々な課題を抱える児童・生徒に対する福祉的観点からのアセスメントやプランニング等の支援を行うとともに、効果的な連携のあり方について教員研修を行うなど、福祉関係機関等との連携ネットワークの充実を図る。

さらに、少年サポートセンターにおいて、非行少年の立ち直り支援等を行うとともに、犯罪への正しい理解や規範意識の醸成を図るため、府内の小学校等に「犯罪被害防止・犯罪被害防止教室」を開催するなど、少年非行の未然防止に努める。

知事の権限事務

また、府立高校において、貧困をはじめとする様々な課題を抱える生徒が、能力・可能性を伸ばすことができるよう、学校の特色に応じた外部人材等を活用した支援を行う。

(「基本方針2(2):活力あふれる府立高校づくりをすすめます」参照)

(「基本方針4 重点取組22:ルールを守り、人を思いやる豊かな人間性のはぐくみ」参照)

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"> ・政令市・中核市を除く全市町村教育委員会にスクールソーシャルワーカーを派遣 (2017(平成29)年度) ・府立高校にスクールソーシャルワーカーを配置 21校 (2017(平成29)年度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・公立小・中学校におけるスクールソーシャルワーカーによる教育相談体制の充実 (2022年度) ・府立高校におけるスクールソーシャルワーカーによる教育相談体制の充実 (2022年度)

◇不登校の未然防止や学校復帰のための支援の推進【一部再掲】

【事業概要】

小・中学校においては、不登校の未然防止・初期対応に向け、こども支援コーディネーターやスクールカウンセラーを活用したきめ細かな相談を行うとともに、各市町村及び校内における不登校対策会議の開催を促進する。

また、長期にわたり欠席状態が継続している児童・生徒の学校復帰に向け、教職員とスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門人材及び教育支援センター（適応指導教室）等が緊密に連携し、児童・生徒の状況に応じた支援に努める。

府立高校においては、不登校の減少を図るため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用した教育相談体制の充実を図る。また、大阪府高等学校教育支援センターにおいて、心理的又は情緒的な原因により不登校状態にある府内の高校に通う生徒に対し、在籍校との連携のもと学校復帰をめざした学習支援や心理支援等を行う。さらに、すべての府立高校において、不登校の減少や中退防止に効果のあった取組みをまとめた冊子「中退の未然防止のために」（改訂版）の活用を図る。

（「基本方針 2（2）：活力あふれる府立高校づくりをすすめます」参照）

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none">不登校児童・生徒数の千人率 小学校：5.4人（※全国：4.7人） 中学校：35.7人（※全国：31.4人） 府立高校：35.2人（※全国：16.4人） （2016（平成28）年度）	<ul style="list-style-type: none">不登校児童・生徒数の千人率 いずれについても全国水準をめざす （2022年度）

◇小・中学校における生徒指導体制の強化

【事業概要】

小・中学校においては、加配教員等の活用とともに、退職校長、スクールカウンセラー等の支援人材や専門人材を配置し、各学校がチームとしての組織的な対応を行うことにより、学校全体の指導体制の充実と関係機関との連携による総合的な問題解決機能の向上を図る。

また、教員の生徒指導に関する力量の向上を図るため、児童・生徒との適切な関わり方や、警察などの関係機関との連携のあり方、異なる校種間の連携等について、実践的な研修を実施する。

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none">・公立小・中学校における暴力行為の発生件数の千人率 小学校：5.4件（※全国：3.5件） 中学校：21.2件（※全国：9.2件） （2016（平成28）年度）・中・高・支援学校生徒指導課題研修を実施 （2017（平成29）年度）	<ul style="list-style-type: none">・公立小・中学校における暴力行為の発生件数の千人率 全国水準をめざす （2019年度）・生徒指導課題研修受講者の肯定的評価 90% （2018（平成30）年度から）

◇私立学校における児童・生徒への支援・相談の取組みの促進

【事業概要】

府教育委員会作成の「いじめ対応マニュアル」等を情報提供し、その活用を促すなど、私立学校や私学団体に対して、**教育長の権限事務**などの取組みを働きかけ、支援する。

また、私学団体による相談窓口の運営のほか、私立学校に対して、スクールカウンセラーの配置など、いじめ等の問題の解決に向けた適切な取組みを求めていく。

◇教員の人権感覚の育成【再掲】

【事業概要】

重大な人権侵害である児童・生徒に対する体罰等が起こることのないよう、「体罰防止マニュアル（改訂版）」「不祥事予防に向けて（改訂版）」等の活用の推進や、教員研修の充実を図る。

（「基本方針 6：教員の力とやる気を高めます」参照）

◇運動部活動指導者の資質向上

【事業概要】

運動部活動指導者を対象に、大学教授や実績のある指導者等を招聘し適切な部活動指導のあり方について研修を実施することにより、部活動指導者の資質向上と適切な部活動の活性化を図る。

【事業目標】

現状	目標
<ul style="list-style-type: none"> 運動部活動マネジメント研修を実施 (2017 (平成 29) 年度) 	<ul style="list-style-type: none"> 運動部活動マネジメント研修受講者の肯定的評価 90%以上 (2018 (平成 30) 年度から)

◇体罰等に関する相談体制の整備

【事業概要】

引き続き、児童・生徒からの訴えや教員等との関係の悩みを相談することができる窓口の設置など校内体制の整備を行うとともに、すべての府立学校において生徒アンケートを実施する。

また、「被害者救済システム」を活用するなど、被害を受けた子どもの立場に立った、第三者の活用による解決・救済を図る。

◇私立学校における体罰等の防止への対応

【事業概要】

体罰等の防止について、府教育委員会作成の「体罰防止マニュアル（改訂版）」「不祥事予防に向けて（改訂版）」等を活用し、また、私立学校や私学団体に対し、**教育長の権限事務**など、私立学校や私学団体に対し教職員による体罰等の防止に向けた働きかけ、支援する。

また、被害を受けた子どもの立場に立った解決が図られるよう、民間の相談機関等と連携した取組みなど、私立学校に適切な対応を求めていく。